令和８年度　北海道帯広聾学校　学校経営方針

目指す学校像

・保護者と地域の理解と信頼のもと、
　子どもと教職員が自分の力を発揮できる学校
・ Well-being な学校

目指す教師像

・幼児児童生徒の気持ちを大切にし、信頼される教師
・専門性や指導力の向上のため、学び続ける教師
・互いに支え合い、組織的・計画的に業務を推進する教師

学　校　教　育　目　標　（目指す子ども像）

・自ら学び、よく考え、行動できる子ども　（知識・技能）
・自分の思いを豊かに表現できる子ども　（思考力・判断力・表現力）
・思いやりがあり、明るく元気な子ども　（学びに向かう力・人間性等）

本　年　度　の　重　点

・心理的安全性,心理的所有感のあるウェルビーイングな学校づくり
（「帯広聾学校的ウェルビーイング」の取り組みの継続）
・適切な実態把握と聴覚障がいの特性・子どもたちの特性を踏まえた指導支援
・教科指導力・生徒指導力の向上と自立活動の充実
・情報活用能力の向上を目指した授業改善・実践と学習指導要領改訂に関する理解
・安全で安心な学校の環境づくりと指導の充実
・保護者や地域、関係機関との連携強化及びろう・難聴者との関わり
・働きやすい・働きがいのある働き方の推進と業務・行事等の見直し

教　育　方　針

・発達の連続性を踏まえ、学ぶ喜びを実感できる授業づくりを行い、自分の力で考え、判断し、表現できる子どもの育成を目指す。

教　育　の　重　点

1　ＯＪＴとメンタリングによる研修と対話を深め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業力の向上に努める。
2　適切な実態把握と聴覚障がい教育の専門性の充実に努める。
3　他の障がい種の知見を広げ、子どもたちの特性を踏まえた指導・支援に努める。
4　発達の連続性を踏まえ、切れ目のない支援と一貫性のある教科指導力・生徒指導力の向上と自立活動の充実に努める。
5　体験的な活動・学習の推進と、ＩＣＴ活用等による授業改善・実践、オンラインによる交流・遠隔学習を進める。
6　非認知能力を伸ばし、「生きる力」の育成に努める。（自己肯定感、社交性、協調性、好奇心、やり抜く力、コミュニケーション力、体力の向上等）

経　営　方　針

・心理的安全性、心理的所有感を高め、解決志向で協働する学校経営を目指す。

経　営　の　重　点

1　心理的安全性、心理的所有感のある組織づくりと教職員及び幼児児童生徒のウェルビーイングの向上に努める。
2　安全で安心な学校の環境づくりと指導の充実（防災・防犯、人権意識、包括的性教育、食育、学校保健、各種感染症予防、メンタルヘルス）及びいじめ防止等の組織的な対応に努める。
3　保護者や地域、関係機関及びろう・難聴者との連携強化に努める。
4　学校・保護者・地域による協働体制を推進する。（「コミュニティ・スクール」（学校運営協議会）等）
5　働きやすさと働きがいを両立させた学校運営体制の充実と具体的な見直し（業務・行事等）を進める。
6　十勝の聴覚障がい教育のセンター的機能の役割を推進し、校内外の支援の充実に努める。

学　校　研　究　主　題　（令和8年度～10年度）

「一人ひとりの多様な実態に応じ、主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」
～共通の指導基盤（学習規律・学部間連携・ICT）に立った、聴覚障がい教育の専門性の追求～